

# 点描ぐんま経済

日銀支店長  
見聞録

■96■

群馬は全国4位の飼養頭数を誇る養豚県だが、中心地の一つが前橋だ。全国約1700

の市町村でも十指に入る(2020年、農林

水産省「わがマチ・わがムラ」)。生産者は飼養方法などの工夫に意欲的であり、全国に400超あるとされる銘柄豚には、全部ないし一部が前橋産とみられるものが10以上はある。

09年には前橋の豚肉料理1位を決める「T-1グランプリ」も始まった。これまでに11の料理が選出され、私は現在通常メニューに載る9を食した。多く

## 前橋の豚肉

の店が受賞をアピールし、イベント効果を実感する。

一方、しばしば話題になるのが、前橋の家

計は豚肉を含む肉の消費が少ないことだ。そうした指摘は総務省「家計調査」(2人以上世帯)のランキングに基づいており、例えば、15~17年の豚肉支出額は県庁所在地の中で46位。直近の18~20年は36位、約10年前も30位台なので変動はあ



渡辺真吾(わたなべ・しんご) 1972年生まれ。岡山県出身。東京大経済学部卒、米シカゴ大で経済学博士号取得。95年に日本銀行入行後、大阪支店営業課長や金融研究所経済ファイナンス研究課長などを経て、2020年9月から現職。

## 食卓の不思議

「養豚県なのに」とも指摘されるが、養豚県である理由の一つが「東京など大消費地に近い」とされるように、地元の消費が生産を大きく下回るのは謎ではない。ただ、豚肉消費の少なさ自体は検討の余地がある。探すと諸説あり、私が見つけた

菜でなければあまり使わないだろうから、粉食文化説は有力に見える。魚説については、マグロ(6位)、サケ(3位)への支出は多いが、鮮魚全体では38位と少ない。生鮮野菜は26位で、魚よりは食べる方だ。

豚熱への対応で、関係者は大変に苦労された今年、県内の

のは「粉食文化」「ごちそうは魚(流通未発達の名残)」「野菜中心」だ。

生そば・うどんへの支出は実際多く、2位(18~20年)。肉は主

評価説」を付け加えた。総菜でもギョーザ(8位)、シューマイ(6位)、カツレツ(14位)に対する支出が多く、中食や外食で豚肉を食べているのかも。お願ひします。

豚熱への対応で、関係者は大変に苦労された今年、県内の